23









Jewellery

貴金属装身具

技と感性が響き合う、貴金属の造形美

競技では、18金の板材や丸線材、2種類の金ロウ材が支給されます。平らな板や線といったシンプルな素材に、切り出し、やすり掛け、打ち出し、曲げ加工、ロウ付、仕上げなど、多彩な技を重ねることで、立体的で優美な作品へと形づくられていきます。製作は一つひとつ手作業で行われ、限られた競技時間の中で、寸法の正確さ、加工の丁寧さ、仕上がりの美しさ、そして高い集中力が求められます。さらに、与えられたテーマに沿って選手一人ひとりがデザインを考え、それを実際の作品として形にしていくことも、この競技の大きな特徴です。競技課題全体との調和を図りながら、自らの発想を作品の中に表現していきます。一枚の板や一本の線が、選手たちの手によって美しい装身具へと姿を変えていく。その過程と完成した作品の双方から、若き技能者たちの確かな技と創造への挑戦をご覧いただける競技です。



＜2025年大会 競技課題＞

競技職種と生活との関わり

金・プラチナなどの貴金属や宝石を用い、指輪やペンダント、ブレスレット、ブローチなどを形づくるのが貴金属装身具製作の仕事です。天然の宝石は、一つとして同じものがなく、その希少性や個性が尊ばれてきました。この仕事の魅力は、自らの手で「世界にひとつだけのジュエリー」を生み出せることにあります。身につける人の想いや個性を映し出し、人生の節目や大切な瞬間に寄り添う存在となるまさに生活に深く結びついた工芸といえるでしょう。貴金属装身具製作技能士の活躍の場は宝飾店やジュエリー工房を中心に広がり、専門性の高い職人の世界でありながら、需要の絶えない活気ある業界を支えています。

基本を礎に、創造力を形に

貴金属装身具製作において、まず大切にしてほしいのは、基本を確実に積み重ねることです。どれほど優れた発想やデザインがあっても、それを支える確かな技能がなければ、思い描いた美しさを作品として表現することはできません。今大会では、国際大会にもつながる基本的な技法や技能を確実に発揮することに加え、身につけた技をどのように応用し、自分らしい表現へとつなげていくかも大切になります。基本を忠実に守るだけでなく、その基本を土台として、自ら考え、工夫し、より良い作品をつくり上げていく。その過程こそが、技能者として大きく成長する機会になると考えています。この競技を通じて、選手の皆さんが「基本を身につけることの大切さ」と「そこから広がる応用の可能性」を実感し、これからのものづくりに生かしてくれることを期待しています。

小池 浄 主査　オーワ工芸



前回大会金メダリストからメッセージ！

［所属：山梨県立宝石美術専門学校］

土田 里彩子 さん

辛くて大変だと思うこともあるかもしれませんが、楽しいこともたくさんあるのでめげずに諦めないで頑張ってください！



前回大会金メダリストインタビュー！